

昨年10月のワドワ・インド大使とラムー参事官の講演に続くインド大使館の2回目の講演会が同じ会場で開かれることになりました。これに先立ってワドワ大使は、7月1日長岡市栃尾美術館（ミティラー美術館コレクション展のオープニング）、10月21日世界最古の演劇クーリヤタム佐渡公演（アミューズメント佐渡）にも来県されている。翌日22日の新潟県民会館大ホールでの公演も、10月3日より2015年にわたるフェスティバル・オブ・インド（インド祭）の一環として開催された。今回の講演会もインド祭として行うもので、経済講演としては日本で最初の講演となる。

日本全国で開催されるインド祭の目玉は、来年3月から2か月間にわたって東京国立博物館で日印交流の歴史始まって以来の「仏像展」。他に、インド映画祭、フードフェスティバルなど様々なインド文化が日本全国で紹介される。これは今年5月に首相となったモディ氏の訪日（8月30日～9月5日）を契機に開催されるもの。

「モディ旋風」と日本でも言われるほど新首相のパワーと行動力が世界においても注目されている。一日早く来日して、京都においてインドの聖地バラナシと京都との姉妹提携を実現。首脳会談では、日本側は直接投資額および進出日系企業数を5年間で倍増させること、および政府開発援助（ODA）を含む3.5兆円規模の投融資を実現すると約束した。またモディ首相は、「21世紀はアジアの世紀といわれるがそれがどのような世紀になるかは日印および日印関係によって決まるといっても過言ではない。日印間の特別な戦略的グローバル・パートナーシップをさらに強化していきたい。」と述べている。

日印の新しい関係が始まろうとする中、今回の新潟での講演会は大変タイムリーな機会となるでしょう。



「The Festival of India インド祭」のロゴ

日印の歴史的文化交流を象徴する図案。中国経由で伝わった弁天様・弁財天は、必ず川や池、海のところにと社が建てられてきた。その理由は、もとの神様がインドのサラスヴァティー川の神様故。川の岸辺でピチャピチャと音がすることから弁舌・学問の神、また、川の清らかな音が美しいことから音楽の神となる。インドでは今でも、学校、大学祭ではサラスヴァティー女神にすべての人が祈りを捧げている。



「Make in India インドで作ろう」

モディ新首相が8月15日の独立記念日の時に提唱した。「インドで物作りを発展させていかなければいけない。国外の人々にはぜひインドへ来て素晴らしい製品を作ってもらいたい。」というキャンペーン。このキャンペーンを象徴するロゴ。

講師の紹介

Deepa Gopalan Wadhwa, Ambassador

ディーパ・ゴパラン・ワドワ大使

1979年インド外務省に入省。北京には2回の駐在経験があり（1983年-1987年と1992年-1994年）、マンダリン語を話す。また、80年代後半にはインド外務省のパキスタン・デスクに勤務。多国籍機関における豊富な経験があり、国連機関では人権、非武装化、環境・社会問題を担当。また2001年には、国際労働機関（ILO）傘下の児童労働撲滅計画（IPEC）のニューデリー事務所長を務めた。香港、ジュネーブ、ハーグにも駐在。インド外務省国連経済社会局局長を務めた後、駐スウェーデン・ラトビアインド大使に任命された。来日前は駐カタール国インド大使（2009年3月-2012年6月）を務める。一昨年8月に駐日インド大使として赴任。

Amit Kumar, Deputy Chief of Mission

アミット・クマール副大使

1995年9月にインド外務省に入省した。インド工科大学カンブール校で機械工学を学び、科学技術学士の学位を取得している。在北京インド大使館で三等書記官を務めた後、インド外務省中国課で課長補佐官、在ベルリンインド大使館で一等書記官、在アンカラインド大使館で一等書記官/参事官、在北京インド大使館で参事官兼商務部部長、インド外務省で外務次官室室長、ニューヨーク国際連合インド政府代表部で公使参事官等の役職を歴任。2014年8月、在京インド大使館に首席公使として着任した。

■ワドワ大使、クマール副大使 歓迎会■

日時：11月18日（火）18:00～20:00（受付開始17:30）

会費：7,000円（150名限定、要申込）

会場：ホテルイタリア軒3Fサンマルコ

主催：インド大使来県歓迎会実行委員会

申込、お問い合わせ：NPO法人日印交流を盛り上げる会

948-0018 新潟県十日町市大池265 ミティラー美術館内

Tel.025-752-2396 Fax.752-6076 Mail:ticket@mithila-museum.com